

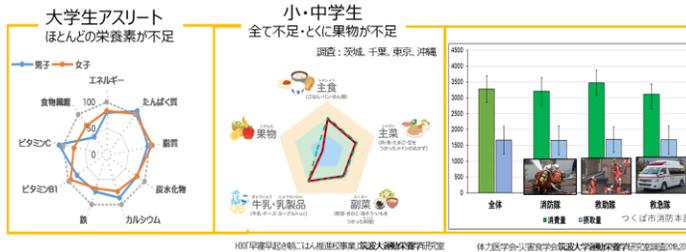
未来社会像

飽食時代の今もなお取り残されている栄養不足者（スポーツ活動に積極的な児童生徒や、アスリート、特殊任務等で活動量の多い消防官・警察官など、連続勤務で食事時間も無い医療従事者など）の、日常の食課題を発見できるアプリを使用することで、それぞれの人の望ましい食の在り方を自立して実践する人が増え、社会が健康になる。

コロナ禍の今のような不活動時間の延長や不規則生活における食課題への応用も可能で、全ての人の健康を底支えでき、「食」で健康社会をつくり、支えることができる。

基本技術

意外と知られていない低栄養問題



アプリを使って食育!!→食の自立



食の適性化

実施概要

目的：つくば型！ばらんすあっぷ「食」アプリの開発とそれを活用した一生涯の「健康」食実践者の開拓。食で支える健康社会の実現へ

実施内容：つくば型！ばらんすあっぷ「食」アプリの プロトタイプ開発。
その実用化のための調査

成果：つくば型！ばらんすあっぷ「食」アプリの プロトタイプ完成予定
(つくば型とは、食べるヒト自らの 『食の自立』を実現すること)

今後の計画： 現在プロトタイプとしてはニーズの高い スポーツ活動に積極的な児童生徒向けアプリを開発中。今後その利用者ターゲットを拡大し、大人世代アスリートや、働く人に広げる予定。対象者拡大は その後、高齢者やアクティブで無い人にも広げ、全世代の様々な生活状況のヒト全てを対象とするアプリを整える予定。

事業化に向けて：ばらんすあっぷ「食」アプリを活用した 食育サポート事業を実践する会社の企業等

【本件に関するお問い合わせ先】

筑波大学 産学連携部 技術移転マネージャー 豆塚 (029-859-1684)